

<p style="text-align: center;">緑の復興</p> <p style="text-align: center;">地域循環共生圏 未来フォーラム</p> <p style="text-align: center;">そろそろ時代の計を始めよう！</p> <p style="text-align: center;">10/31 SAT 13:00→18:00</p> <p style="font-size: small;">本学も、トリプルエッジニューイングランド メトローポリタンホール西</p>	<p style="text-align: center;">地域と金融</p> <p style="text-align: center;">地域循環共生圏 ESG金融フォーラム</p> <p style="text-align: center;">変わる金融 / 生きる地域</p> <p style="text-align: center;">12/3 THU 13:00→18:00</p> <p style="font-size: small;">アートホテル盛岡 3階 鳳凰の間</p>	<p style="text-align: center;">炭素と文化</p> <p style="text-align: center;">地域循環共生圏 脱炭素まちづくりフォーラム</p> <p style="text-align: center;">エネルギーと文化が絡りなす地域の基盤へ</p> <p style="text-align: center;">12/4 FRI 9:00→14:00</p> <p style="font-size: small;">アートホテル盛岡 3階 鳳凰の間</p>
<p>12:00▶開場 受付開始 13:00▶開会 主催者挨拶 13:10▶14:00 特別講演 「コロナを奇襲として加速するプラチナ社会」 フジテレビ総合編成局長、元NHK総合編成局長 小宮山 宏 氏 基調講演 「フューチャーデザイン 持続可能な未来に向けて」 株式会社未来デザイン研究所 代表 原 圭史 氏 国内先達事例 「40年後の住民と創る矢巾町の未来戦略」 矢巾町立総合企画課 企画課長 吉岡 律司 氏 15:05▶15:30 国内先達事例 「持続可能な社会の創造を目指して ～財務省東北財務局の取組み～」 財務省東北財務局長 原田 健史 氏 16:20▶17:30 講演 講演 講演 「気候変動×主権者教育」プロジェクト 気候変動・主権者教育推進委員会 代表理事 東海林 拓郎 氏 17:30▶18:00 交流タイム</p>	<p>12:00▶開場 受付開始 13:00▶開会 主催者挨拶 13:10▶14:00 基調講演 「コロナ時代のサステナブル 経営と地域戦略」 三菱UFJ銀行 持続可能性推進部長 藤野 隆雄 氏 アサヒ銀行 環境・社会・ガバナンス推進部長 藤田 大輔 氏 慶応義塾大学 大学院政策・メディア研究科 教授 吉高 まり 氏 14:05▶14:55 国内先達事例 「近江商人のESG地域金融」 近江商工振興会 代表理事 藤田 隆雄 氏 15:05▶15:25 国内先達事例 「地域循環共生圏 四国地域ブロック会議について」 四国地域ブロック会議 事務局 常川 真由美 氏 15:30▶16:50 10組 [1組6分～7分] フリートーク (一般) 三井住友銀行 代表理事 平田 祐之 氏 17:00▶18:00 ディスカッション</p>	<p>8:30▶開場 受付開始 9:00▶開会 主催者挨拶 9:10▶10:00 基調講演 「自然エネルギーによる緑の復興と 脱炭素まちづくり」 東北電力株式会社 環境・社会・ガバナンス推進部長 三浦 秀一 氏 10:05▶10:55 国内先達事例 「東近江三方よし基金 が後押しする 地域ビジネス」 三重県 環境・社会・ガバナンス推進部長 山口 美知子 氏 11:05▶12:25 10組 [1組6分～7分] フリートーク (一般) 三井住友銀行 代表理事 平田 祐之 氏 12:30▶14:00 ディスカッション</p>

**認定特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第35号(新年号)2021.1.20**

代表理事新年のご挨拶



みなさま、新年明けましておめでとうございます。2020年は、新型コロナウイルスで始まりその終息を見

ないまま、むしろ拡大しつつ年末を迎え、そして新年を迎えることになりました。

多くの地域ではコロナ禍の中、新しい生活様式で静かなお正月を迎えられたことと思いますが、一方で大変な豪雪に見舞われた地域があります。地球温暖化による気候変動は、このような激しい気象災害をもたらすといわれています。

昨2020年、世界では地球温暖化枠組み条約に基づくパリ協定のスタートの年でした。また、SDGsの促進を図るため国連が打ち出した「行動の10年」のスタート

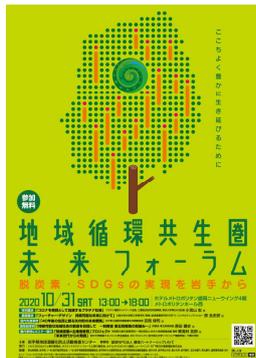
の年でもありました。また、国内では菅内閣が誕生し、所信表明で2050年ゼロエミッションを宣言し、行政や企業などが一斉に脱炭素を目指すきっかけとなった記念すべき年になりました。

今回のコロナ禍はいずれ必ず収束しますが、気候変動によって新たな感染症の脅威が増加するといわれています。今回のコロナ禍の経験を将来に活かすとともに、その根源である地球温暖化を止めるためのグリーンリカバリーがコロナ禍の中にあっても世界中で取り組みを始めています。

2021年はわが国でもグリーン社会の実現に向けた補正予算や新年度予算が本格的に動き出す実行の年です。コロナ禍を早期に克服し、持続可能な社会を目指して着実な一歩を踏み出す年にしていきましょう。

地域循環共生圏 フォーラム特集！！

地域循環共生圏フォーラムが、10月1回、12月は2回の計3回開催です。第1回目は10月31日(土)13:30~18:00の時間帯、ホテルメトロポリタン盛岡 NewWing メトロポリタンホールを会場にして「地域循環共生圏未来フォーラム」として開催です。参加者は142名(会場:102名、オンライン:40名)でした。渋谷代表の開会挨拶を皮切りに、特別講演をプラチナ構想ネットワーク会長小宮山宏氏が、「コロナを奇貨として加速するプラチナ社会」と題して行いました。岩手としての強みがあることを話しておられたのが印象的でした。続いて、大阪大学大学院工学研究科教授の原圭史郎氏が「フューチャー・デザイン持続可能な未来に向けて」と題して基調講演を行いました。フューチャー・デザイン(現世代が将来可能性を最も発揮できるような社会の仕組みをデザインすること)を熱く語っていました。



国内先進事例では矢巾町未来戦略室長の吉岡律司氏が「40年後の住民と創る矢巾町の未来戦略」として水道行政の在り方から水道料金決定のプロセスを丁寧に説明していました。次いで、国取組事例を財務省東北財務局長原田健史氏が、「持続可能な地域社会の創造を目指して～東北財務局の取組み～」

を講演、財務局の使命そして持続可能な地域財政の創造、持続可能な地域社会を創造する人材育成について様々な事例を語っていました。



国内先進事例として秋田能代高等学校の東海林拓郎氏が「気候変動×主権者教育プロジェクト」について学校の事例を交えて発表しました。更に圏内事例として岩手大学環境マネジメント学生委員会の取組み、岩手県立大学のIRCプロジェクトについて、下ノ橋中学校の生徒さん達が「環境学習を柱とした3年間の学び」と発表していただいた後、盛況の中野澤特別顧問の閉会のあいさつで無事に閉幕しました。



第2回目は12月3日(木)13:30~18:00の時間帯で、アートホテル盛岡の鳳凰の間を会場にして「ESG金融フォーラム」が開催されました。参加者は312名(会場:92名、オンライン:220名)。基調講演は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)経営企画部副部長吉高まり氏が「コロナ時代のサステナブル経営と地域戦略」と題し、これからの経営で取り組むことを中心に話され、バックキャストイングの考え方は参考になりました。続いて、国内先進事例で「近江商人のESG地域金融」と題して滋賀銀行統合企画部サステナブル戦略室長嶋崎良伸氏が滋賀銀行の具体的な取組み事例の講演です。



更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。



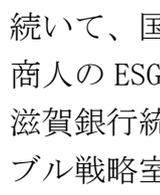
更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。



更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。



更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。



更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。



更に連携先進事例「地域循環共生圏四国地域ブロック会議について」と題して四国EPO統括常川真由美氏が四国地域循環共生圏取組み事例の発表です。

常川真由美氏はコロナ禍の影響で四国から出れずオンラインで講演でした。



次いで、ショートプレゼンテーションを、ファシリテーターに(一社)コ・クリエーションデザイン代表理事平田裕之氏を迎えて8組のプレゼンです。プレゼン

方式は、スライド1枚20秒で説明する方式で、20秒経過すると自動でスライドが切り替わるので工夫が必要です。最初、平田さんが「畑がついているエコアパートをつくろ!!」でショートプレゼンテーションのお手本を披露。さて本番、1番目、(株)浄法寺漆産業松沢卓生さんが世界に誇る素材・漆の魅力や課題・活動状況を発表。講演者吉高まり氏は「漆を使った製品のSDGsについて効果を明確にするとESG投資につながる。」とコメント。2番目はFROM NIPPON 境悠作さんが釜石で間伐材にデザイン適用で皿等を作成し利活用に繋げ、更に燃料消費サイクル構築のプロジェクト推進を発表。講演者嶋崎良伸氏は「地域資源にデザインを活用して価値を作っている。森林資源利活用にデザインを加えて展開して欲しい。」とコメント。3番目東北景観倶楽部小沢晴司さんが東松島を皮切りに京都、八戸、福島と各地の発表。12月4日フォーラム講演者三浦秀一氏は「自然一産業一被災地とした景観の捉え方があると気づかされた。ここから新たな地域循環共生圏の姿が生まれるかもしれない。」とコメント。4番目は株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ大関一陽さんが、会社の事業取組で、IT関連機器製造をハードウェア・ソフトウェア一貫して行い、海外企業と連携実現、地域連携も注力していると発表。12月4日講演者山口美知子氏は「ワクワク感を感じる会社だと思う。イノベーションを起こす人材育成が大きな課題だが、簡単に行っていると感じる。是

非、子供たちに見せたいし、岩手にある会社だと知って欲しい。」とコメント。5番目は東北財務局高橋郁恵さんが持続可能な地域社会の実現に向けた財務局の活動状況発表。金融・金融研究・地域連携への取り組みは、解りやすかった。講演者吉高まり氏は「金融教育は大事、東北財務局で取り組んでいることに感動した。頑張る。」と激励。6番目は釜石ローカルベンチャー合同会社 sofo 神脇隼人さん。「ノンアルコールクラフトビールでゼロから持続可能な地域・社会・未来を創る」を発表。講演者嶋崎良伸氏は「元気のある素晴らしいプレゼンだ。クラウドファンディングとノンアルコールビールの結び付けもユニークでこれからを担って行くことを感じた。」とコメント。7番目 SoRaStars 株式会社の山崎智樹さんが人材育成とカフェで取り組む事業の発表。12月4日講演者三浦秀一氏は「地域循環共生圏を自分事として考える教育は素晴らしい。」とコメント。8番目は株式会社柴田産業柴田君也さんが「林業を通じて取り組むローカルSDGsで岩手の山を元気に」を発表。12月4日講演者山口美知子氏は「コロナ禍の状況で森や木への取り組みは大切なことの一つ是非事業展開を頑張りたい。」と激励。最後、平田裕之氏が「岩手の地は宝石の原石がゴロゴロ転がっている。金融との連携がどんな広がりか期待感があふれる。」と総括。



第3回目は12月4(金)9:00~14:00、前日と同じアートホテル盛岡の鳳凰の間を会場にして「脱炭素まちづくりフォーラム」が開催。参加者は218名(会場:75名、オンライン:143名)。基調講演は「ゼロカーボン・再エネ100%は地域に何をもちたらすか」を東北芸術工科大学教授の三浦秀一氏が講演。ゼロカーボンを地域が目指す



には、家をまちを、エネルギーを、経済を変えてゆくことの必要性が理解できました。



続いて国内先進事例「地域ビジネスを支える三方よし基金の役割」と題して公益財団法人東近江三方よし基金常務理事

山口美知子氏の講演。木地師から

近江商人派生に繋り三方よしに繋がった経緯から、地域経済を環境計画に含め地域資金循環ベース基金設立と資金活用事業例が解りやすい説明でした。また、木地師が奥州市に移り住み鋳造技術を広め南部鉄器が生まれた意外な関係を知りました。次いで先日に続け(一社)コ・クリエーションデザイン代表理事平田裕之氏のファシリテーターでショートプレゼンテーション実施。9組のプレゼン。花巻青年会議所小野寺理さんが未来デザインとして地方創生を高校生が様々なアイディアを発表するプロジェクトのプレゼン。東北地方環境事務所長中山氏は「地方創生が未来につながる内容だ。」とコメント。2番目に一般社団法人くまお鎌田里苗さんが neko mo SDGs Project で猫を題材のプレゼン。講演者山口美知子氏は「動物問題も切り口を変えると面白い。図書館の取組みも継続して欲しい。」とコメント。3番目は山田町地域おこし協力隊中島崇さんが町おこしを無人島活用で行う発表。前日講演者吉高まり氏は「自分の想いだけでは町おこしにつながらない、相手企業ニーズを入れる事で資金が流れ込む。」とコメント。4番目北東北 SDGs ファシリテーターネットワーク3方(赤澤さん、渋谷さん、丸尾さん)の SDGs ファシリテーターの発表。講演者三浦秀一氏が「仲間で活動できているので羨ましい。」とコメント。5番目は小島製菓山内瑞貴さんが、「MUSUBit プロジェクト」お菓子で栄養を採る取組の発表。東北地方環境事務所長中山氏は「上手なプレゼン。お菓子

屋さんの取組は初めて聴いた。頑張っで。」のコメント。6番目に川上塗装工業川上秀郎さんが会社活動は SDGs 目標と一緒だと事例を交えて発表。講演者三浦秀一氏は「ドローン活用等プレゼンがカッコいい。塗装の断熱データは無いと思うので、是非データ蓄積と研究を願いたい。」とコメント。続いて7番目は NPO 法人 RAY of HOPE 魚山 宏さんがいのちの学校として子供たちが楽しく命の勉強を行う取組を発表。講演者山口美知子氏は「災害対応にこどもの視点が漏れていることがあると考えさせられた。」とコメント。8番目は株式会社アレフ渡邊大介さんが会社で取り組む脱炭素の発表。講演者吉高まり氏は「再エネ取組は頑張っていたきたい。食品ロスの取組でインフルエンサーを探している。興味があれば手を挙げて。」と声かけられました。9番目は SEVEN FOREST PROJECT 徳田真理子さん二夢さん親子の発表。突然農業をやることになり、様々な人たちとの連携ができていることを発表。東北地方環境事務所長中山氏が「地方創生で言う関係人口が個人間で連携していることが素晴らしい。」とのコメントで一連の発表が終了、フォーラムも終了です。

■会員様へのお願い

令和2年度の会費未納の方を対象として会費(1口3千円)納付をお願いしております。

編集後記

第35号は2020年開催3回のフォーラムを中心に掲載いたしました。より良い活動に向上するために皆様からのご意見をお待ちしています。

ニューズレター第35号〔令和3年1月20日発行〕

編集：環境パートナーシップいわて

マネジメント・ガバナンス委員会

〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6

TEL 019-681-1904

mail:kanpai@utopia.ocn.ne.jp